

研究報告掲載報文要旨

漁獲状況および標識放流試験からみた近年の日本海におけるサワラの分布・移動

戸嶋 孝, 太田武行, 児玉晃治, 木所英昭, 藤原邦浩
日本海沿岸の漁獲情報および標識放流試験結果を用いて, 近年の日本海におけるサワラの分布・回遊パターンを考察した。日本海西部では, 9~10月に「さごし」銘柄の尾叉長300~500mmの0歳魚が多く漁獲され, 日本海北部では, 5月に「さわら」銘柄の尾叉長600~700mmの1歳以上魚の漁獲が多かった。また, 標識放流試験では放流魚の多くが放流海域付近で再捕され, 日本海に來遊したサワラは2歳になるまでは日本海に留まると考えられた。

日本海におけるサワラの雌の成熟と産卵

藤原邦浩, 佐藤翔太, 戸嶋 孝, 木所英昭
日本海で漁獲されたサワラの雌の卵巣に関する組織学的観察および産卵期における漁獲状況を調査し, 日本海におけるサワラの成熟・産卵特性を明らかにした。調査したサワラの雌のうち, 日本海での産卵が示唆された個体はわずか1尾であり, 多くは産卵可能となる段階までは成熟が進んでいなかった。日本海でサワラの漁獲が急増して10年以上が経過するが, 現在でも, 日本海に分布するサワラの主たる産卵場は, 日本海以外にあると考えられる。

近年の日本海中部沿岸域におけるサワラの漁況予測手法

木所英昭, 戸嶋 孝, 奥野充一, 児玉晃治, 藤原邦浩, 浅野謙治

1999年以降, 日本海において漁獲量が急増しているサワラの漁況予測手法を検討した。石川県, 福井県, 京都府のサワラ漁獲データを用いて, 秋漁期における尾叉長65cm未満の「さごし」銘柄の漁獲尾数を説明変数とし, 翌年の尾叉長65cm以上の「さわら」銘柄および翌々年春漁期の「さわら」銘柄の漁獲尾数を回帰分析した。その結果, 各々の関係には有意性が認められ, 「さごし」の漁獲動向から, 翌年の「さわら」の漁獲量を予測できる可能性が示された。

京都府沿岸域における遊漁船による釣獲量推定(資料)

山崎 淳, 辻 秀二, 濱中雄一

2007-2010年の標本船日誌, Webサイトおよびアンケートをもとに, 京都府沿岸域でマダイ釣りをを行う遊漁船の延遊漁者数と釣獲量を推定した。年間の平均延遊漁者数は65,613人(50,828-80,641人), 平均釣獲量は542トン(366-690トン), 1日1人当たり平均釣獲量(CPUE)は8.3 kg(6.0-10.5 kg)と推定された。釣獲

量が最も多かったマダイの年間平均釣獲量は160トン(147-195トン)で, 沿岸漁業の漁獲量の1.7倍であった。釣獲量が漁獲量を上回った魚種は, 他にイサキ, チダイ, メダイおよびウスメバルであった。天然礁域と魚礁域でのCPUEを比較した結果, マダイ, ブリ, イサキでは前者が後者より高く, マアジ, メダイ, チダイでは後者が前者より高かった。